

夏の谷津田はムシ王国

松本 美千代 (千葉市)

日 時：2013年7月21日(日) 10時30分～12時 天候：晴れ

参加者：24名(大人15名 子ども9名)

担当指導員：田井中信子 松本美千代

集まってきた子どもたちは、虫かごや虫捕り網を手にかにも今日はつかまえてやるぞという格好であった。(昆虫・クモ・貝・小動物など生きものをざっくり分けた)冊子を配り、みつけたらシールを貼るように話す。ムシ(生きもの)を直ぐに捕まえるのではなく、先ず観察して、どんな所にいたか、何をしているのか、何匹いたか等をじっと見てほしい。捕まえたムシは絶対に持ち帰らず、いた場所に返してほしいとお願いする。いのきものの里として保全しているこの谷津田は、ムシたちにとって一番安心な住みやすいところですから。

下見をしておいたポイントごとに案内する。入口広場のシラカシの枝に止まるアオバハゴロモの幼虫と成虫を観察して、セミ・カメムシの仲間にシールを貼る。大人の方は名前を記入。同じく広場草地ではヨモギの葉の中のヒメアカタテハの幼虫をみて、チョウ・ガのなかま。ショウリョウバッタやコオロギ、クビキリギスでバッタなどのなかま。ナナホシテントウをみつけてカブトムシのなかまと広場だけでも色々な種類のムシ達が見つかった。上空をオニヤンマが飛ぶ田んぼ脇でまとめをする、

1位はトンボなどのなかま

オニヤンマ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、ハグロトンボ、ノシメトンボなど

2位はカブトムシ(甲虫)のなかま

コクワガタ、ノコギリカミキリ、トホシテントウ、ナミテントウ、ハネカクシなど

3位はセミ・カメムシなどのなかま

アオバハゴロモ、アミガサハゴロモ、ブチヒゲカメムシ、ニイニイゼミ、ヒグラシなど  
感想での人気の王様はオニヤンマで、ハリガネムシが2位であった。

オニヤンマの大きな羽化殻が見つかり、産卵も始まっていたが、この日は田んぼの上を高く飛んでいるのをみるだけだった。トンボのテーマでオニヤンマを捕まえたことがある大人や子どもは、とても印象に残っているようで、残念そうに上空をみていた。

「水の中で卵から幼体になったハリガネムシは、水生昆虫に食べられ、その水生昆虫を食べたカマキリのお腹の中で養分をもらい成体となり出てくる」と次回の「ハチにもいろいろいるよ」の担当指導員に説明を聞いた大人は、「人間だとサナダムシかな？」こどもは「カマキリのお腹にこんなのがいたんだ」とビックリしていた。(2日後の生きもの調査時、水の中にカマキリがいて、お腹からハリガネムシが出てくるのをみる事ができた。水の有るところまで行かせるようにするのだろうか?とても不思議である。)

最初に昆虫の中でも強そうなカマキリも成虫になれるのはたった一匹という『162匹のカマキリたち』の絵本をみせる。食べたり、食べられたり、そういう自然のなかでの命のつながりを観察会で感じられたらいいなと思ったのだが・・・  
大草谷津田生きものたちの受難日にしてしまったと反省。

参加者に子供が喜ぶ甲虫を見つけていただいたり、記録を書いていただいたり、いろいろと手伝っていただき感謝です。



得田之久 著、福音館書店 刊  
月刊「かがくのとも」2000年5月号